山形県教育センター　令和７年度調査研究

# 学び続ける教師を支える研修体系設計に係る研究
## ーすべての教職員に充実した学びの場を提供するためにー

| 所属 | 氏名 |
| --- | --- |
| 研修課 | 豊田彩子、髙橋千雲、丸山あき子<br>鹿野真子、笹木覚 |
| 研究・情報課 | 佐々木剛、狩野峰彦<br>芳賀崇、藤原誠 |
| 特別支援教育課 | 相沢直樹 |
| 教育相談課 | 門脇史恵 |

# 目次

本研究の背景とねらい

これまでの研究成果

研究報告Ⅰ.イントロダクションに関する研究について

研究報告Ⅱ.研修体系の内容に関する研究について

まとめ

# 本研究の背景とねらい

背景

「令和の日本型学校教育」を実現するためには、子供たちの学びの転換とともに、教師自身の学び（研修観）の転換が求められている。

↓

「新たな教師の学びの姿」の構築へ

ねらい

「ウェルビーイングの実現に向かう学校を支援する」ことを目的に、質の高い研修体系をつくる。

# これまでの研究成果

現行の研修等を振り返る

ニーズの調査
改善点の検討

研修講座への反映

# これまでの研究成果（１年目・令和５年度）

## 横断・縦断・連携

### 学校マネジメント講座等の分析

・受講者自身が主体的に取り組む研修講座で学びが深まる
・対話による省察で学びが深まる

### 義務教育学校の視察

学校マネジメント講座
山形大学教職大学院教育実践研究科と連携して進める教員研修。年間にわたる省察的実践をとおして、全校的な学び合い文化を醸成しながら、学校マネジメントに必要な資質・能力の向上を図る。

## ニーズを反映した研修づくり

### 研修者アンケートの導入

・受講者の困っていることや悩み、学びたいことの調査
・研修形態別（集合・オンライン・オンデマンド）の満足度調査

## 【提案】専門研修での省察（リフレクション）の導入

# これまでの研究成果（２年目・令和６年度）

## 研修者が主体となる発意と振り返りのあり方

学校マネジメント講座等の分析

・受講者の観察（継続）
・ファシリテーターの役割について実践を通して考える

## 学びを深めるための研修のあり方

NITS研修

・指導主事が「研修観の転換」について考えを深める

「受講者にどのような豊かな気付きや変化があるか」を大事にし、その気付きや変化を起こすために、「何を学ぶか」を検討し「どのように学ぶか」という受講者の具体的な学びの姿を考え、構成することが必要である

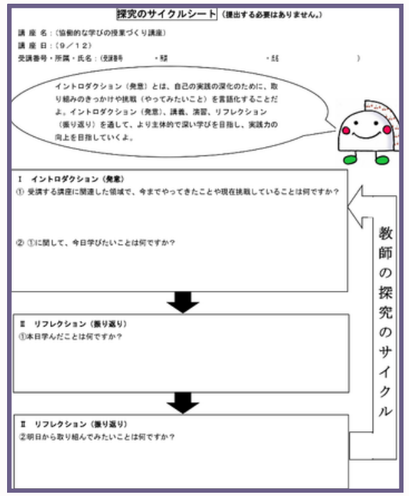
【提案】イントロダクションの導入、探究のサイクルシートの導入

# これまでの研究成果（まとめ）

## 専門研修の構成例

| | |
|---|---|
| オリエンテーション | 9:50 ～ 10:00 |
| イントロダクション | 10:00 ～ 10:15 |
| 講義・演習<br>（昼食休憩１時間） | 4時間程度 |
| リフレクション<br>（振り返り） | 15:30 ～ 15:50 |
| 諸連絡 | 15:50 ～ 16:00 |

## 探究のサイクルシート




Ⅰ.イントロダクション（発意）

①受講する講座に関連した領域で、今までやってきたことや現在挑戦していることは何ですか？

②①に関して、今日学びたいことは何ですか？

Ⅱ.リフレクション（振り返り）

①今日学んだことは何ですか？

②明日から取り組みたいことは何ですか？

数分間個人で記入し、１０分程度数人のグループで共有する

# 令和７年度の研究報告

## Ⅰ．イントロダクションに関する研究

【視点】イントロダクションの効果検証

## Ⅱ．研修体系の内容に関する研究

【視点】研修体系の構造化

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

令和５、６年度

イントロダクション、リフレクション、探究のサイクルシートの導入

受講者の学びの「入り口」をデザインした

令和７年度

効果検証

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

## 方法

①イントロダクションに関するアンケート調査

②探究のサイクルシートの分析

③追加インタビュー調査

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

## 方法①イントロダクションに関するアンケート調査

対象となる講座：山形県教育センターが主催する以下の専門研修(合計201名受講)

「学習指導力アップ講座」、「協働的な学びの授業づくり講座」

アンケート回答者：82名

アンケート回答率：41%( ＝ 82 / 201)

アンケート回答方法：５件法

5　できた

4　どちらかといえばできた

3　どちらでもない

2　どちらかといえばできなかった

1　できなかった

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

## 方法①イントロダクションに関するアンケート調査

4つの観点で10個のアンケート項目を作成

- 研修目的の明確化
- 研修内容の充実
- 研修中の他者とのかかわり
- 自己の変容

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

## 方法①イントロダクションに関するアンケート調査

| | （イントロダクションを行い、研修に臨むことで、） | 研修の目的 | 研修内容 | 他者とのかかわり | 自己の変容 |
|---|---|---|---|---|---|
| （1） | 研修への心構えができた。 | ○ | | | |
| （2） | 研修目的を（自分なりに）明確にすることができた。 | ○ | | | |
| （3） | 研修内容を自分自身の課題として捉えることができた。 | ○ | ○ | | |
| （4） | 主体的に（前向きに）研修に参加することができた。 | | ○ | | |
| （5） | 自身の課題を深く考える事ができた。 | | ○ | | ○ |
| （6） | 他者に自分の考えや意見を伝えようとすることができた。 | | | ○ | |
| （7） | 他者と他者の意見や考えを受け入れることができた。 | | | ○ | |
| （8） | 今後の課題解決に向けて前向きに捉えられるようになった。 | | | | ○ |
| （9） | 研修後の行動変容のきっかけとなった。 | | | | ○ |
| (10) | 研修をより良いものにできた。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (11) | その他、イントロダクションをしたことによって気づいたことがあれば自由に記入してください。 | | | | |

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

n=82

5…できた

１…できなかった

## 方法①イントロダクションに関するアンケート調査

| （イントロダクションを行い、研修に臨むことで、） | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| （1） | 研修への心構えができた。 | 70.7% | 26.8% | | | |
| （2） | 研修目的を（自分なりに）明確にすることができた。 | 74.4% | 23.2% | | | |
| （3） | 研修内容を自分自身の課題として捉えることができた。 | 69.5% | 24.4% | | | |
| （4） | 主体的に（前向きに）研修に参加することができた。 | 70.7% | 22% | | | |
| （5） | 自身の課題を深く考える事ができた。 | 63.4% | 30.5% | | | |
| （6） | 他者に自分の考えや意見を伝えようとすることができた。 | 67.1% | 24.4% | | | |
| （7） | 他者と他者の意見や考えを受け入れることができた。 | 73.2% | 22% | | | |
| （8） | 今後の課題解決に向けて前向きに捉えられるようになった。 | 69.5% | 22% | | | |
| （9） | 研修後の行動変容のきっかけとなった。 | 58.5% | 26.8% | | | |
| （10） | 研修をより良いものにできた。 | 70.7% | 26.8% | | | |

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

## 方法①イントロダクションに関するアンケート調査

自由記述回答

・研修が始まる直前に、なにを学びにきたのか自分の中で再確認することができました。

また、他の先生方の学びたいことなどをお聞きしたことで、学びにもなりました。

・自主的に選んだ研修であったが、イントロダクションに答えることで、自分が何に疑問を持ってこの講座を選んだか明確にすることができた。

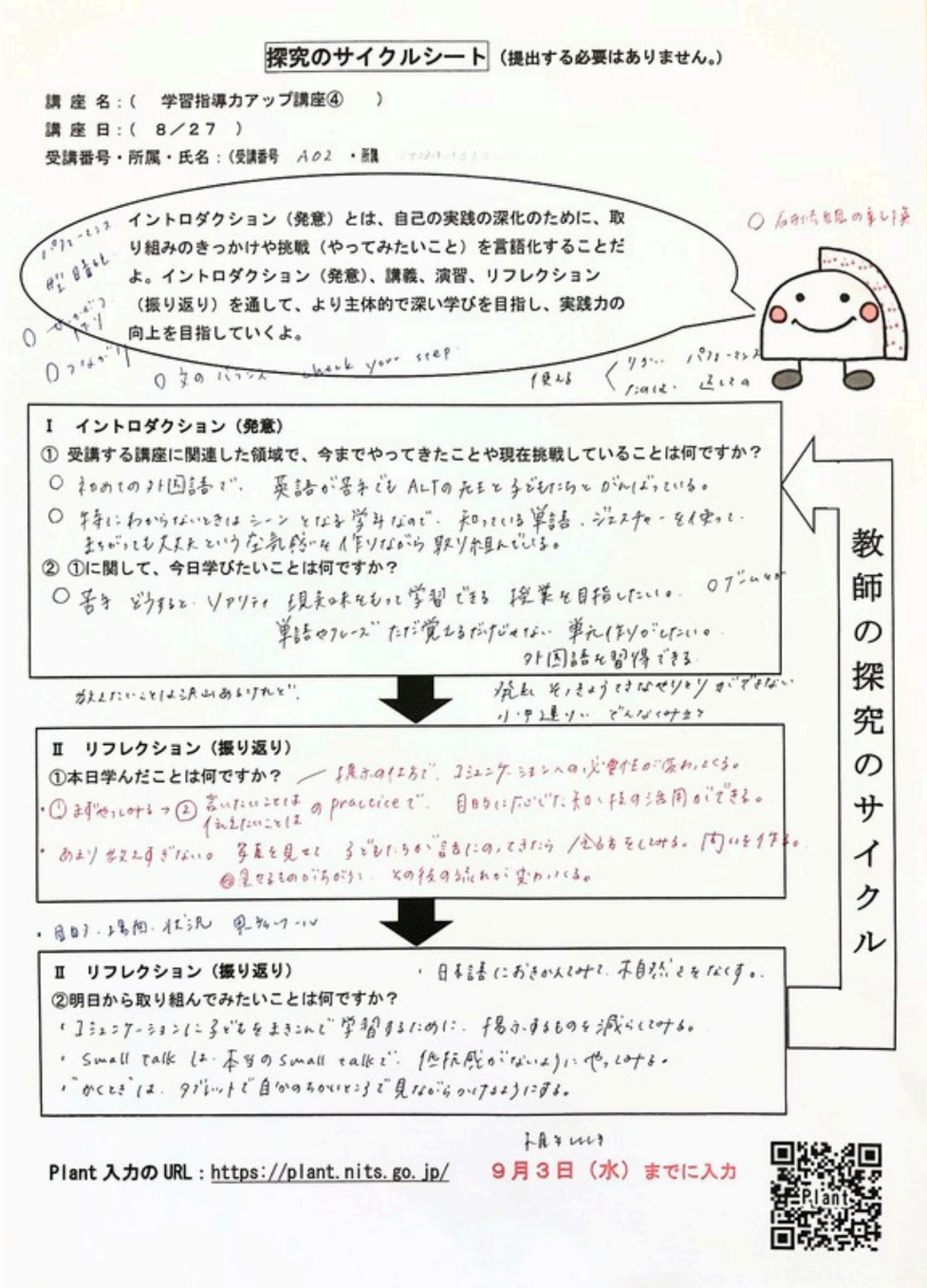
・初めに今日学びたいことを考えたが、講義で学んだことは別のことだった。ただ、今回は講義で学んだことの方が自分の成長につながった。

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

## ②探究のサイクルシートの分析

サイクルシートの使い方はばらばら

研修者の学びの様子を見取ることは難しかった



探究のサイクルシート（提出する必要はありません。）

講 座 名：（　学習指導力アップ講座④　）
講 座 日：（　8／27　）
受講番号・所属・氏名：（受講番号　A02　・

イントロダクション（発意）とは、自己の実践の深化のために、取り組みのきっかけや挑戦（やってみたいこと）を言語化することだよ。イントロダクション（発意）、講義、演習、リフレクション（振り返り）を通して、より主体的で深い学びを目指し、実践力の向上を目指していくよ。

Ⅰ　イントロダクション（発意）
① 受講する講座に関連した領域で、今までやってきたことや現在挑戦していることは何ですか？
○ 初めての外国語で、英語が苦手でもALTの先生と子どもたちとがんばっている。
○ 特にわからないときはシーンとなる学年なので、知っている単語、ジェスチャーを使って、まちがってもよいという雰囲気を作りながら取り組んでいる。
② ①に関して、今日学びたいことは何ですか？
○ 苦手意識をなくしてリアリティ、興味をもって学習できる授業を目指したい。
単語やフレーズただ覚えるだけじゃなく、単元作りがしたい。
外国語を習得できる

教師の探究のサイクル

Ⅱ　リフレクション（振り返り）
①本日学んだことは何ですか？
・①まねっこ → ②言いたいことは伝えたいことは の practice で、目的にだけでなく知識の活用ができる。
・あまり教えすぎない。写真を見て子どもたちが話に乗ってきたら会話をしてみる。間いを作る。
・見るものがちがい、その後の流れが変わってくる。

Ⅱ　リフレクション（振り返り）
②明日から取り組んでみたいことは何ですか？
・コミュニケーションに子どもをまきこんで学習するために、掲示するものを減らしてみる。
・small talk は本当の small talk で、強制感がないように やってみる。
・"かくとき"は、タブレットで自分のものいろいろで見ながらかけるようにする。

Plant 入力の URL：https://plant.nits.go.jp/　　9月3日（水）までに入力

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

③追加インタビュー調査

「どちらでもない」と回答した方から５名

「講義を受ける前に記入するものなので、自分の考えているイントロダクションの内容と講義内容とで整合性が取れているかどうか不安がありました」

ズレが生じる可能性はあるものの、いつもと異なる視点で考えるという点では効果があるのではないか

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

## ③追加インタビュー調査

「どちらでもない」と回答した方から５名

もともと研修を受けることが好きでどんな形の講座でもやる気がある。そして、主体的に臨むことが当たり前と考えているため、イントロダクションによって「モチベーションが上がった」とか「変容した」とは考えていない。そのため、「どちらでもない」が多くなった。ただ、講座の中やリフレクションなどでの対話の中から自分の意見のみではない、新しい発想を得ることができた。

「どちらでもない」と回答した方も、イントロダクションに対してポジティブな意見を持っている

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

## 指導主事の気づき

イントロダクションを始めたことでリフレクションがより良い時間になった感じがする。

講師の方もイントロダクションに参加した際には、受講者の理解ができて距離を縮めることができた。同時に、話し合いから出た疑問等をその日の講座に反映いただけた。

受講者が普段の学校のことから、研修のことに頭を切り替える良い時間になっていた。自分の話を聞いてもらえるありがたさを実感しているようだった。

イントロダクションの効果を実感できたので、今後は形式に頼らずに、イントロダクションと意識させないで問として生まれるような時間にできるよう挑戦したい。

# Ⅰ．イントロダクションに関する研究

## 考察

イントロダクションを入れることで受講者の学びを深める効果がある

研修を充実させ、リフレクションで振り返ることで、さらに学びを深いものにできる

↓

大切なのは『シートを埋める形式』ではなく、『生まれる問いの質』である

↓

問いの質に関して、検討を継続してより良いものにしたい

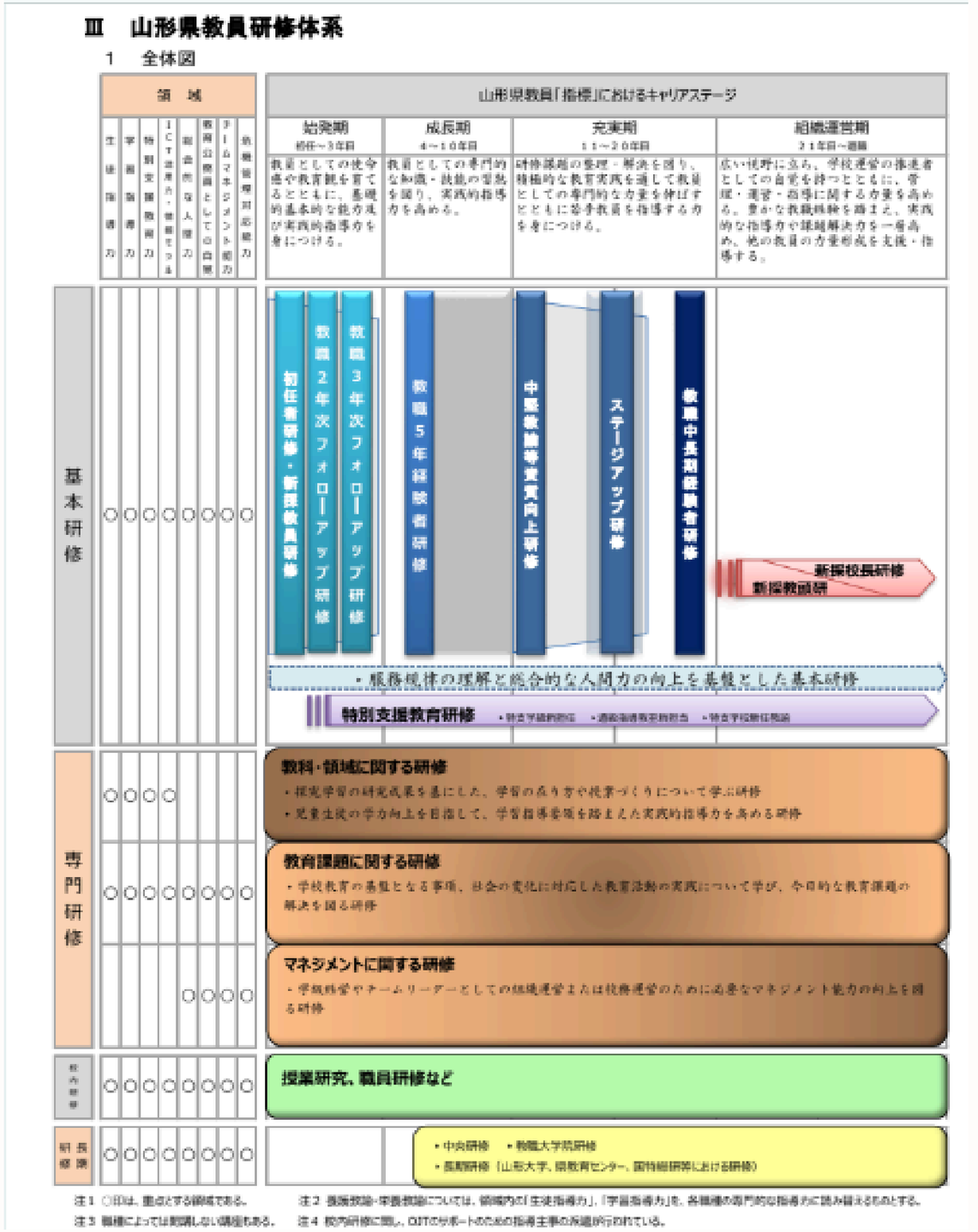
# Ⅱ．研修体系の内容に関する研究

経緯

専門研修のリニューアル

山形県教員指標の改正

教員研修体系全体図も見直し



# Ⅱ．研修体系の内容に関する研究

## 目標

教員自身がキャリアを俯瞰した際に、研修の位置づけを確認できる教員研修体系図を

見ることで、県教育センターが行う研修に興味をもってもらう

## 方法

他の都道府県での教員研修体系図を参考にしながら、改正の方向性を定める

方向性＝どんな目的で、誰に向かって、どんな情報を、どのように示すのか

# Ⅱ．研修体系の内容に関する研究

## 専門研修を申込むまでのながれ

# Ⅱ．研修体系の内容に関する研究

## 専門研修を申込むまでのながれ

教員研修体系全体図

教員のキャリアを俯瞰した際に
研修の位置づけを確認できる

ポスター
各校に配付

チラシ・リーフレット
校長会等で配付

Plant
全国教員研修プラットフォーム

ログイン・申込

受講

**広報物の役割を理解し、連携して作成する必要がある**

# Ⅱ．研修体系の内容に関する研究

## ポスター（案）

## 研修講座案内サイト（案）

# まとめ

- イントロダクションの効果を検証することができた。今後、研修の内容、リフレクションを含めて、研修全体の計画を練り、より良い研修を目指す。
- 教員研修体系の位置づけを確認することができた。山形県教育センターが実施する研修をどのように周知するべきかを、ポスターやWebページと連動しながら、効果的に活用できるよう工夫していく必要がある。

# まとめ

たった１枚の紙の改革

# 参考文献


- 独立行政法人教職員支援機構(NITS).教育委員会等で公表している「研修計画」.https://www.nits.go.jp/service/shihyo/kenshukeikaku.html.(参照 2025-7-28)
- 鈴木久米男、福島正行.教員の育成指標と研修体系との関連づけの実態 -東北六県及び政令市の教員研修計画の分析及び運用の実態把握から-.岩手大学大学院教育学研究科研究年報第 6 巻(2022.3)P.145－158.
- 福島県教育センター.アラマナ通信.2025 年度第1～7号:MS明朝11